



## 4. 緑地配置計画

## 4. 緑地配置計画

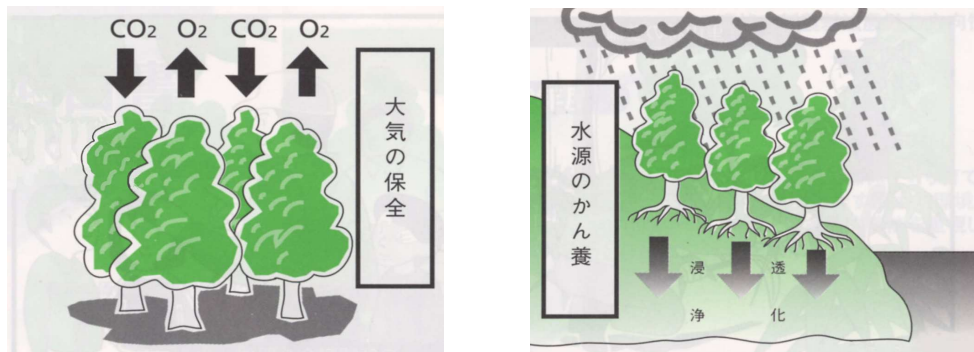
### 4.1 緑地配置の課題

ここでは、伊勢原市の緑の特性や緑の6つの役割を踏まえ、緑地配置上の課題を明らかにします。

#### (1) 都市環境の保全のための課題

##### ○ 森林の保全

大山・日向の森林は、林業者の高齢化や人手不足等の理由から、管理不足による荒廃が進んでいます。伊勢原のシンボルであり、良好な都市環境に必要な大気の保全・雨水の流出調整機能など、重要な機能を有する豊かな緑を保全していくことが課題となります。



森林の保全（資料：林業白書）

##### ○ 「やま」から「さと」への緑の骨格軸を維持・強化する

大山・日向から、伊勢原市総合運動公園、市民の森ふじやま公園の位置する丘陵を経て市街地に連なる樹林地と、善波尾根から坪ノ内を経て市街地に連なる樹林地に代表される「おか」の緑が、「やま」の豊かな緑を「まち」へ導き、さらに鈴川や歌川・渋田川により「さと」と結ばれ、都市の緑の骨格軸を形成しています。

今後、第二東名自動車道や国道246号バイパス（厚木秦野道路）事業、また成瀬第二特定土地区画整理事業等の大型開発事業により、緑の骨格軸が分断されることのないよう、樹林地や農地等の保全及び既存施設の緑化向上に向け、次に示す軸上に位置する都市基盤整備の適正な誘導を図る必要があります。

- 伊勢原市総合運動公園と県立いせはら塔の山緑地公園は、「おか」の緑を「まち」に導く結節点にあたり、緑の連続性に配慮した公園整備を行う必要があります。特に県立いせはら塔の山緑地公園は自然環境との共生を重視し、鈴川沿いの鈴川工業団地とともに緑の結節点としての機能を強化します。
- 成瀬第二特定土地区画整理事業及び東部工業団地では、計画的な緑の創出に努め、「まち」から「さと」の緑の連続性を強化します。
- 第二東名自動車道や国道 246 号バイパス（厚木秦野道路）については、沿道等における緑の連続性を十分確保し、緑の復元を図るとともに新たな緑地軸を形成して、その影響軽減に配慮することが課題となります。特に、自動車排出ガスや走行騒音、自然景観の改変等に対する配慮が求められており、緑の有する環境保全機能を最大限に発揮させることにより、健全な都市環境の保全に努めます。



「やま」からの緑の連続性



高架下の緑の連続性確保（首都高，幡ヶ谷）